

県道 43 号線の歴史

県道 43 号丸山加賀線は、昭和 48 年赤瀬ダム建設着工に伴い、ダム周辺の崩落等による災害時の迂回路として林道から主要地方道県道 43 号線に格上げされました。

大杉から戸谷の菩提越峠を越えて那谷に至る道の通行の歴史は古く、1300 年昔、泰澄大師一行が越前禪定道の市ノ瀬から分かれて牛首川沿いに下り、牛首(白峰)から幾つもの険阻な山を越え、谷を渡って花立峠を越え、丸山町から大杉に出て那谷寺に向かった最短距離の道でもありました。栗津温泉の湯宿法師を開いた雅亮法師もこの峠を通過して栗津に至ったものと思われます。峠の北側の谷は広大な面積が今でも那谷町の飛び地となっており、その南端部の役行山と三童子山に囲まれた一角は「エンギョ」と呼ばれ、修験道の行者が狭隘な山峽に集って修行した洞窟や遺構跡、集落跡等が確認されていて白山修験道の修行場であったと推定されています。

下って 15 世紀、吉崎に逗留していた蓮如もこの菩提越峠を越えて、弟、応玄の住む山崎(上大杉)の「円光院」を訪れました。明治期に入り大杉に住む人が多くなり、米や日用品の多くが小松や那谷から運ばれましたが、戸谷口からは小松へ 5 里、那谷へ 2 里の道程で那谷の方が近く、この峠を越えて江沼郡内と交流する人が多くなりました。大正 3 年、栗津～河南間に温泉電車が通じ、那谷から電車に乗れば東へは栗津温泉線、西へは山代、山中温泉、大聖寺、動橋、片山津温泉へ早く楽に行けるようになり、村民から菩提越峠の下にトンネルを通すよう強く要請されました。

県はこれを受けて昭和に入りトンネル工事が始まり、トンネル両側の道路拡幅工事も進められて昭和 5 年に「戸谷隧道」は完成しました。トンネルは素掘りで覆工が無く時々落盤が発生して通れなくなったこともあり、床は何時もぬかるんでいましたが、多くの村民が松明をかざしてコーモリの突撃を避けながら通りました。昭和 40 年代に覆工工事が施されたこともあり、完成以来今日まで 90 年間、不思議にも一度も人身事故は発生しませんでした。今は、多くの人が難儀して越えた菩提越峠は通る人も無くなり草木に埋もれて道跡も分からなくなっています。

昭和 53 年、赤瀬ダムの完成により、傍を通る県道 161 号線も拡幅されて車の通行が早くなり、下大杉から那谷まで、瀬領、西荒谷、湯の上を通る大回りでも 30 分程で行けるようになりまた。車社会となった現在、軽自動車以上の車は通れない戸谷トンネルを含めて、大杉側の戸谷口から那谷側の菩提境までの約 4.5 km間は、主要地方道でありながら、赤瀬ダム完成後も紆余曲折があつて拡幅工事は進まず、両端にゲートが設置、施錠されて車両通行止となっています。

丸山町から大杉を通り那谷町に至る県道 43 号線のルートは上記のように古代から利用され、現代でも車両の通行が可能であれば小松市南部と加賀市を結ぶ主要道として活用が見込まれます。沿道にはエンギョ地区に修験者が白山を礼拝、修行した役行山、役行窟、三童子山、他多くの遺構跡が確認されており、大杉側の中腹には修行の一つとして約 100m四方の面積に、小石を並べて描いた母龍を中心とした龍群の巨大なハーレムの地上絵が再現されつつあります。

これらの歴史遺産はそれぞれ整備され、県道 43 号線の不通区間が拡幅されてアクセスが良くなれば、今後、小松市の観光資源として大いに役立つと思います。

(記載 中江広蔵さん)



(11月24日参加の皆様)

歴史の道散策 参加者募集

ずいどう

菩提峠・戸谷隧道（大杉トンネル）

期 日	令和元年11月24日（日）
集合場所	里山自然学校こまつ滝ヶ原場駐車場・受付
時 間	9時集合（小雨決行）
距 離	大杉～滝ヶ原（約6 km）歩行時間約2時間30分予定
日 程	9：00 集合、受付
	9：30 マイクロバスで大杉へ出発
	10：00 赤瀬ダムトイレ
	戸谷林道入口下車 ～ 県道43号丸山加賀線 ～
	戸谷隧道 ～ 赤倉林道分岐 ～ 菩提 ～
	滝ヶ原到着
	12：30 滝ヶ原自然学校で昼食・解散

1. 古城橋



2. 大杉側



3. トンネルの中



4. 那谷側



5. 峠のお地藏さん



6. 赤倉林道分岐の石柱

